



2025年10月31日

各位

株式会社 山口銀行

## 「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約締結について

山口銀行（頭取 曾我 徳将）は、株式会社松永牧場（代表取締役 松永 和平）と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約を締結しましたので、下記のとおりお知らせします。

当行は、地域金融機関としてSDGs/ESGへの取り組みを強化し、様々な事業活動を通じて、多様な課題の解決に取り組み、地域の価値向上を実践していくことにより、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

### 記

#### 1. ローン概要

ポジティブ・インパクト・ファイナンスとは、お客さまの企業活動が社会・環境・経済にもたらすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に特定・評価し、お客さまの企業活動を通じたポジティブな影響の創出・継続、ネガティブな影響の抑制・緩和の支援を目的とする融資商品です。

#### 2. 企業概要

企 業 名	株式会社松永牧場
所 在 地	島根県益田市種村町イ1780-1
代 表 者	松永 和平
業 種	畜産業
サステナビリティ向上に向けた取り組み等	当社は、島根県益田市にて肉牛牧場を運営しています。繁殖から肥育まで一貫した体制を整え、自社ブランド「まつなが和牛」「まつなが牛」を確立。食品残渣を活用した飼料化や牛糞を堆肥化する仕組みにより、廃棄物削減や環境負荷の低減を実現することで、資源循環型の持続可能な畜産モデルを築いています。 グループ会社では、乳牛の飼育をはじめ、太陽光発電事業や木材リサイクル事業など多角的な事業展開を行っており、グループ内外との連携によるサステナビリティの向上に積極的に取り組み、地域社会および環境に配慮した事業運営を行っています。

#### 3. 契約概要

契 約 日	2025年10月31日
融 資 金 額	1億円
期 間	5年

4.目標とKPI

ポジティブインパクトの創出・継続、ネガティブインパクトの抑制・緩和の状況を測定・管理できるよう以下のKPIを設定しております。

コア・インパクト	No.	目標・KPI / 直近の実績	KPI 達成に向けた具体的な取組	インパクトの種類 関連する SDGs
1. 上質な和牛の提供	①	<b>【JGAP 認証の取得】</b> ・ 2028 年 12 月までに JGAP 認証※ <sup>1</sup> を取得し、以降継続する  <現状> ・ 未取得	・ JGAP に準じた島根県の認証制度である「美味しいしまね認証ゴールド」の取得を維持する ・ JGAP 認証取得に求められる生産工程管理、衛生管理、記録管理体制を整備する ・ 認証取得に向けたスケジュール管理を徹底するとともに、従業員へ GAP 基準の周知を行う ・ JGAP 認証取得後、第三者認証機関からの年次審査や定期モニタリングへの対応を継続する	<b>【社会面】</b> 「健康及び安全性」、「食糧」における PI の創出・継続  
		<b>【低い事故率の維持】</b> ・ 毎年の事故率(牛の死亡率) 1%を維持する ※同業者平均値 3%  <2024 年 12 月期> ・ 1.0005% (1 年間に死亡した頭数/現状の家畜数)		
	<b>【JAS 規格認証の継続】</b> ・ 生産情報公表牛肉 JAS 規格※ <sup>2</sup> の認証取得を継続する  <現状> ・ 2004 年より認証取得継続	・ 生産履歴の正確な記録と追跡可能な管理体制を維持する ・ 関係法令や規格の最新情報を収集し反映できる体制づくりを行う ・ 定期的な社内点検と改善を実施するとともに、職員へ JAS 規格に関する教育を強化する		
2. 健康を重視した職場環境の創出	④	<b>【労災事故件数の減少】</b> ・ 休業 5 日以上のけがを毎年ゼロにする  <2024 年 12 月期> ・ 2 件	・ 安全教育の回数を増やし、組織全体の安全意識の向上を図る ・ 車両系、フォークリフトの技能講習終了証を全員取得する	<b>【社会面】</b> 「雇用」における PI の創出・継続 「健康及び安全性」における NI の抑制・緩和  
		<b>【有給休暇取得日数の増加】</b> ・ 2030 年 12 月期までに平均有給休暇取得日数を 11 日にする  <2024 年 12 月期> ・ 平均有給休暇取得日数 5 日		
	<b>【健康経営認定法人の継続】</b> ・ 健康経営優良法人認定を継続更新する  <現状> ・ 2025 年 3 月取得	・ 従業員に健康経営優良法人認定の内容理解を促すとともに、定期的に労使間でコミュニケーションをとることで、よりよい職場環境を整える ・ 健康経営実践に向けた PDCA サイクルを運用する		

3. 循環型農業の実現	⑦	【食品残渣の仕入量増加】 ・ 2030年12月までに食品残渣の年間仕入量を20,000t以上に にする	・ お茶かす等、仕入れる食品残渣の種類を増やす ・ 食品加工業者との連携強化や新規開拓を図る ・ 資源循環モデルの外部発信等を強化する	【環境面】 「廃棄物」におけるPIの創出・継続 「水域」におけるNIの抑制・緩和 
		<2024年12月期> ・ 食品残渣仕入量18,787t		
	⑧	【家畜排せつ物の再生利用率100%の維持】 ・ 家畜排せつ物の再生利用率(堆肥化)100%を維持する	・ 牛舎の拡大と販路の拡大を図る ・ 適切な発酵管理による堆肥化プロセスの安定運用を図る	
		<2024年12月期> ・ 家畜排せつ物の再生利用率(堆肥化)100%		
	⑨	【ISO14001認証の継続】 ・ ISO14001の認証取得を継続する	・ 環境方針と目標を定期的に見直し、更新する ・ 環境関連法規の遵守状況の確認と内部監査を実施し、適切な運用体制を維持する ・ 従業員への環境教育、意識向上活動を実施する	
		<現状> ・ 2003年より認証取得継続		

※1 JGAP 認証とは、農林水産省が推奨する「持続可能で安全な農業経営」を実現するための第三者認証制度。(正式名称: Japan Good Agriculture Practice、日本の良い農業の取り組み) 農産物や畜産物の生産現場において、食品安全、環境保全、労働安全、追跡可能性(トレーサビリティ)等の項目を体系的に管理していることを示している。

※2 生産情報公表牛肉JAS認証とは、農林水産省が定めたJAS規格の一つで、牛肉の生産履歴と品質情報を明確に開示して販売できることを示す第三者認証制度。消費者に対し、生産者情報や飼料情報、飼養管理情報、トレーサビリティ等を透明に開示している。

### 5. 山口フィナンシャルグループのマテリアリティ

山口フィナンシャルグループは、持続可能な社会の実現に貢献していくために、「グループサステナビリティ方針」を策定し、この方針に基づき、重点的に取り組むべきESG課題である「マテリアリティ」を特定しております。本件は、12のマテリアリティの中で、「④商品・サービスの安全性と品質向上」、「⑤省資源・省/創エネルギーへの対応」、「⑥大気汚染・気候変動への対応」、「⑦環境に配慮した商品・サービス開発」、「⑧人材育成・研修機会の創出」、「⑨安心・安全な労働環境作り」の実現に資する取り組みです。

 地域社会・経済活性化への取り組み	①人口減少・少子高齢化への対応 ②地域におけるイノベーション創出、地域産業の成長サポート ③地域コミュニティとの連携強化	 環境保全への取り組み	⑤省資源・省/創エネルギーへの対応 ⑥大気汚染・気候変動への対応 ⑦環境に配慮した商品・サービス開発
	④商品・サービスの安全性と品質向上		
 従業員全員の働きがいへの取り組み	⑧人材育成・研修機会の創出 ⑨安心・安全な労働環境作り ⑩多様な人材の活躍 (ダイバーシティ&インクルージョン)	 強固な経営基盤づくりへの取り組み	⑪ガバナンス体制・内部統制の強化 ⑫経営の透明性向上と説明責任

以上

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

事業性評価部 ソリューション推進グループ  
 担当：柳川・江藤 TEL：083-223-3448